

和名：ウリミバエ

学名：*Bactrocera cucurbitae* (Coquillett)

英名：Melon fly



図 ウリミバエ
成虫（上）、幼虫（下）

分布

中国、東南アジア、インド、パキスタン、タンザニア、ケニア、ハワイ諸島、ミクロネシア、パプアニューギニア等

寄主植物

ウリ科植物の生茎葉及び生果実、インゲンマメ、ゴレンシ、ササゲ、シシトウガラシ、トマト、ナス、パパイヤ、ヒロセレウス属、マンゴウ属植物の生果実

形態

成虫は体長約8～9mmで、体色は淡黄褐色～淡黄赤褐色。頭部はミカンコミバエに似るが、頭頂の横帯はなく、複眼間にある3対の刺毛の基部の褐色紋も不明瞭。胸背部は黄赤褐色～淡赤褐色で淡黄色の短毛が全面に密生する。肩瘤紋と横溝後方の3縦線は淡黄色～白色。小盾板は淡黄色～白色で小盾板刺毛は通常1対。翅は透明で末端紋、横紋及び肛脈上の斜紋は暗褐色であるが、前縁は黄褐色。脚は淡黄色。腹部は丸く、黄赤褐色。第3節基部の細い横帯とそれ以下の各節に連続する1本の中央縦帯は黒色。雄の第3節両側後縁に刺毛列がある。産卵管は扁平で淡黄色。卵は乳白色。ミカンコミバエの卵とよく似るが本種の方がより大型で長さ1.1～1.4mm。幼虫はミカンコミバエと極めて似ており、3齢中期までは乳白色であるが、老熟期には橙黄色になる。老熟期幼虫の平均体長は11.8mm。囲蛹の長さは4.8～6.0mm、黄褐色の俵状。他のミバエ類と同様、3齢幼虫の脱皮殻で覆われた囲蛹の中で4齢期を過ごした後、その中で脱皮して蛹化する。

生態

野菜類の幼果に好んで産卵し、1雌の産卵数は1回20～30個。総産卵数は1,000個以上で、1果実に100個程度産卵することもある。カボチャ、スイカ等では幼苗の新芽、雄花の蕾、若茎にも産卵することがある。孵化した幼虫は果実内部を食害し、老熟すると脱出し、土中で蛹化する。南西諸島では年間7～8世代繰り返すことが可能であると推定されている。成虫は1～5ヶ月間生存する。

被害

本種群が果実に寄生すると腐敗・落果を引き起こし、収穫皆無となることがある。かつて南西諸島ではウリ類の最重要害虫であったが、不妊虫放飼法により22年間の歳月と204億円の費用を投じて1993年に我が国から根絶された。